

新型コロナウイルス感染症に対する関心の推移

——リツイート数についての量的調査と分析

本論文は、「新型コロナウイルス感染症」という新たな感染症との共存が社会において試みられた過程において、人々の間で生じたと考えられる新型コロナへの関心の変容の実態を明らかにすることを目的としたものである。

第1章では、社会における新型コロナの「風化」について迫るため、「新型コロナウイルス感染症関連の報道量」の調査を行った。具体的には、NHKが報道した新型コロナ関連の記事の本数を月ごとに集計し、グラフに表した。本調査より明らかとなった、2022年10月以降における記事の本数の大きな減少からは、時間の経過とともに、新型コロナウイルス感染症が、社会において取り立てて注目すべき事項ではなくなっていくことが示唆された。

第2章では、SNS上の反応の変化から新型コロナに対する関心の推移を捉えるため、「旧Twitter（現X）における東京都の新規感染者数を報じる投稿へのリツイート数」について調査を行った。本章の調査を通じては、感染の拡大/縮小の傾向に応じて、新型コロナウイルス感染症に対する関心が高まったり、低減したりしていたことが示唆された。加えて、感染状況が、感染の急拡大が見られる度に逼迫していったことに対して、新型コロナへの関心の高まりの度合いは、次第に小さくなっていったことも確認された。

第3章では、移動という観点から関心の推移を捉えることを目的として、コロナ禍の前後における人流の変化について調査を行った。調査を通じては、国土交通省が公開している「全国の人流オープンデータ」の内、「東京都内における人の移動」と、「東京都以外からの都内への人の流入」とに関わるデータを取得し、分析を行った。調査結果からは、都内における人の移動について、感染の拡大/縮小の傾向が移動量の増減に影響を及ぼしていた可能性が示唆された。他方で、都内への人の流入については、感染拡大/縮小の傾向が流入量の減少/増加に影響を与えていた時期と、感染拡大の傾向と相反するように流入量が増加した時期の双方について確認することができた。

第4章では、第1章から第3章にかけて記述した調査結果と考察を踏まえて、コロナ禍を通じての新型コロナの位置付けられ方と社会感情の推移について論じた。リツイート数の調査をはじめとした本論文における調査からは、総じて、新型コロナとの共存・併存が目指された日常が、当該の感染症のことを強く意識しなくともよい新たな日々によって上書きされていき、コロナ禍という事象が、過ぎ去った出来事として社会において風化していったことが確認できたといえる。